科目名 ：	数学Ⅰ入門	単位数 ： 2 単位	必要スクーリング出席回数： 2 回
使用教科書 ：なし			
学習書 ・副読本 ：：高校 数学入門 基礎徹底60 （東京書籍）			

	年間総数	１範囲	２範囲	３範囲
レポート [R]	6 枚	2 枚	2 枚	2 枚
スクーリング [S]	10 回	4 回	3 回	3 回
テスト [T]	1 回	○	×	×
その他 （課題・実習等）	スクーリングにて総合問題を実施する場合あり			

1 担当者からのメッセージ（学習方法等アドバイス）

高校数学に必要な基礎的な計算能力を、演習を通じて習得するための科目です。
数学の苦手な方で、正負の足し算、引き算ができない方は、「数学Ⅰ」を履修する前にこの科目を受講することが望ましいです。
正負の計算ができる方は「数学Ⅰ」を受講してください。
演習もスクーリング中に行います。スクーリングの必要最低回数は２回ですが、受講される方はなるべく多くの回数のスクーリングを受講することがのぞましいです。

2 学習の到達目標

正負の計算、分数の計算、文字式の計算、根号を含む式の計算などの計算方法を理解させる。
「数学Ⅰ」の学習に向けて高校数学に必要な基礎的な計算能力培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b ：数学的な見方や考え方	c ：数学的な技能	d ：知識・理解
観点の趣旨	正負の計算、分数の計算、文字式の計算及び根号を含む式の計算の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，正負の計算、分数の計算、文字式の計算及び根号を含む式の計算の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	正負の計算、分数の計算、文字式の計算及び根号を含む式の計算において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	正負の計算、分数の計算、文字式の計算及び根号を含む式の計算における基本的な概念，原理・法則等を体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価方法	・記述の点検 （レポート）	・記述の点検 （スクーリング）	・記述の確認及び分析 （レポート）	・記述の確認及び分析 （レポート） （定期考査）

・学年末に５段階で評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1範囲	正負の計算・分数の計算	正負の計算 加法、減法 いくつかの数の加法 加減の混じった計算 乗法、除法 いくつかの数の乗法 分数の計算 加法、減法 乗法、除法		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○		a:数の大小を理解し、数直線上に示そうとする。 b:分数の割り算は、割る数の逆数をかけることがわかる。 c:正負の四則計算ができる。 d:分数の計算方法を理解し、問題が解ける。	・レポート ・スクーリング ・定期考査
2範囲	文字式	文字式の約束 同類項の計算 単項式の乗法 累乗を含む計算 単項式の除法 乗除の混じった計算		○	○ ○ ○		a:文字式のきまりに従って文字式を表そうとする。 b:同類項をまとめるなど、整式の加法・減法の計算がわかる。 c:文字式のきまりに従って、文字式で表すことができる。 d:整式の乗法の計算を理解し、問題が解ける。	・レポート ・スクーリング
3範囲	文字式の計算・根号を含む式の計算	数×多項式 多項式の計算 多項式×単項式 分配法則を利用した展開 平方根の基礎 乗法、除法 加法と減法 分母の有理化		○	○ ○ ○ ○ ○		a:分配法則を利用して式を展開しようとする。 b:平方根の計算法則がわかり、具体的な計算に利用できる。 c:かっこをはずして同類項をまとめ整理できる d:平方根の計算法則がわかり、いろいろな計算問題に利用できる。	・レポート ・スクーリング

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：数学的な見方や考え方
　　c：数学的な技能　　d：知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。